
モンスターハンター ～異世界から来た太陽～

Mt.KOBURA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスターハンター

～異世界から来た太陽～

【Nコード】

N9619Y

【作者名】

M t . K O B U R A

【あらすじ】

成績優秀、運動神経抜群の主人公が仲間と一緒に狩りまくるほのぼの？ストーリーです！

第1話：嵐の前の静けさ（前書き）

こんばんは!!

夜だけど、初投稿でテンション上がりまくりのKOBURAです！

今日が初投稿ですので駄文、文法が成り立っていないのであらかじめご了承ください

それでは、記念すべき第1話
始まり始まり！

第1話：嵐の前の静けさ

Hello!! 俺は七海紅葉!! キラッキラの中学生だ!

……はあゝ、たりいゝ

このテンションマジできつい…

分かる?俺超燃え尽きてんの。

だって、朝からこのテンションつて…

でも、一つだけ熱心に取り組めるゲームがあるんだ!!

その名を“モンスターハンターポータブル”

俺がこれまで、やってきたゲームの中でも特に面白い!!って俺が絶賛するくらい面白い!!

???「おい、紅葉ゝ!」

ちなみに今の声は俺の幼なじみでありながら、

モンハン仲間でもある“赤羽 栞”だ。

栞「紅葉!私やっとジンオウガ倒せたよ!!」

……朝からうるせえゝゝゝ(怒)

ちなみに今、会話にでたジンオウガってのは

モンハンに出てくる4足歩行で電気を操るモンスターね(誰に説明してんだ?俺!?)

…つかジンオウガなんてとつくに倒してるし…

栞「ねえ、紅葉、聞ってる!?!」

紅葉「ああ、聞ってる聞ってる?」

栞「何そのは「おい、おっふたゝりさゝん!」ん?あつ!!良と蓮」

今、会話にでた良と蓮も俺の幼なじみでモンハン仲間。

「ねえねえ、聞いて!!私やっとジンオウガ倒せたよ!!」

良「おお、よかったじゃん!!」

蓮「…遅くね？」

栞「むー！しょうがないじゃん！もともとああ

いうゲーム苦手だし！」

紅葉「…苦手ならやんなよ…」

栞「えー！だって、みんなと話が合わないの

嫌だし」

面倒くさい性格…

良「なーなー、そんなことよりさ、歩きながら

でいいから、モンハンやろうぜ！」

栞「あ！私も！私も！」

蓮「俺も！」

良「紅葉は？」

紅葉「やる…。」

こうして俺たちは学校に行くまでモンハンをやることになったんだけど……まさかあんなことになるとは今の俺たちじゃ予想すらつかなかった……

第1話・嵐の前の静けさ（後書き）

どうでしょうか！？

ご感想などお待ちしております。

第2話：謎の黒い穴（前書き）

こんばんは～

テンション高いうちに2話目投稿です。

まあ、こんなにテンションが高いのは、今日でテストが終了だから
（こんなときに勉強せずに執筆している私はダメ人間　テヘツ）

まあ、テストの話はこんくらいにして

それでは第2話　「謎の黒い穴」

始まり始まり～

第2話：謎の黒い穴

みんなで歩いて10分　やっと学校が見えてきた
グレーの校舎　校庭には朝練が終わって燃え尽きている生徒たち
あれが俺たちの通っている私立名秋学園（ちなみに県内で一番頭の
いい学校だって　自慢じゃねえぞ^^）

さて、おそらく校門には…いた　源田だ…

あつ、源田っていうのは、生徒指導の先生で

名秋学園では生徒に一番嫌われている先生ね

（最近俺、誰に説明してんだ？）

紅葉「おい、お前ら　源田がいるから、そろそろ…」

俺が言いかけた瞬間、キイーンと耳鳴りのような音が聞こえて
きた。

紅葉「なんだこの音？耳鳴り？」

良「紅葉、お前も聞こえんのか？」

紅葉「え！？お前も！？」

蓮「俺も聞こえるぞ」

栞「私も」

紅葉「周りの様子を見る限り、耳鳴りは俺たちだけみたいだな。」

良「ああ。でも、なんで…？」

良が言い終わった瞬間、耳鳴りが急に止まった…

蓮「あれ？止ま…」

その時、突然ギョオオオオオと変な音があった。

良「な、なんだこりや！？」

紅葉「（一体、どうなつてやがる…？）」

バコッ

容器を潰したような音が聞こえた瞬間、校門に突然黒い穴が出現した。

良「うわっ！！」

蓮「なんだ、ありゃ！？」

栞「ど、どうなってんの！？」

紅葉「周りの奴等は気づいてねえみたいだな……」

紅葉が言い終えたあと、突然4人の身体が光始めた

良「なっ！？」

蓮「う、うわ！？」

栞「きゃあ！！なにこれ！？」

紅葉「まだ、誰も気づかねえのか！？」

そう、まだ誰も紅葉たちの異変には気づいていない。

その時、4人の身体が一際強い光を発した瞬間、突然4人の姿が消えてしまった。

しかし、そのことに気づくものは、誰1人としていなかった……。

第2話：謎の黒い穴（後書き）

どうでしたか？

感想などよろしく願います。

第3話：ジャギイの群れとドスジャギイ！？（前書き）

こんにちは

テストが、終わってウキウキルンルンの
Mt・KOBURAです！！

いや、テストって嫌ですね。
今年は高校受験なんで勉強やろうとは思ってんですけどね。
中々、上手くいきません

さて、それでは第3話「ジャギイの群れとドスジャギイ！！
始まり始まり」

第3話：ジャギイの群れとドスジャギイ！？

??? side

来たか…

……

そのように…

さて、次の太陽はどれほど輝くものか…

楽しみですな…

??? side

うん？ここはどこだ…？

??? 「…いつ、起き…」

だ、誰だ…？

??? 「…いつ、起きろ…！」

…ちっ！うるせえなあ…！

??? 「おい、起き…ゲフツ…！」

良side

俺が目を開けた時、目の前に広がった光景はなんとも言い難い光景だった。

良「な、なんだ…ここ？」

目の前に広がるのは新緑の森、悠久の崖、小鳥のさえずり、遠くから聞こえる何かの咆哮

良「ど、どうなってんだ!？」

確かにさっきは、学校の通学路で4人とモンハンしながら、歩いてた筈…!？」

良「そ、そうだ…!みんなは!？」

周りを見ると、3人ともすぐ近くにいた　よかった…

良「おいっ!？みんな大丈夫か!？」

紅葉「うう…」

良「紅葉!？おいっ!！大丈夫か!？」

紅葉「うっ…うう…?」

良「おいっ!！起きろ!！」

良「おいっ!！起き「うるせえなあ!！」ゲフツ!！」

えっ!？なんで!？なんで殴られんの!？っ！か、顔!？しかもゲーパン!？」

紅葉「っ…なんだよ、耳元で怒鳴りやがって…」

良「いや、俺は起こそうと…」

蓮「うう…」

栞「う…ここは…?」

良「おおっ、二人とも気がつ「うつせえ!！」…」

なあ、俺キレていいよな　いいよね　だって、俺だけおかしいじゃん（涙）

紅葉「ん？何泣いてんの?」

良「うつせえ!！…うう」

なんで、俺だけ…　あっ、でもさすがの紅葉も心配くらいしてく…
紅葉「んなことより、ここ何処だ?」

うん、軽く受け流されたね…

朶「あれ、さつきまでゲームやってたのに…」

蓮「つーか、バッグとかみんな無くなってるね？」

朶「あつ！ほんとだ！」

紅葉「まあ、んなもんでもいい　んなことより、ここは一体どこだつー話だ」

良「少なくとも、日本じゃねーよな」

朶「うん…うちの近くにもこんなところないよ」

紅葉「やっぱ、さつきの黒い穴が原因か…」

蓮「つーか、このまま、帰れんかったら、どうしよー」

さすが、蓮だな　意味わかんないことに来ても全く動じてない

朶「もー、そんなこといわないで！ー」

蓮「あゝ、悪い、悪い」

紅葉「さて、それにしても…？」

良「どした？紅葉？」

紅葉「…歩くぞ…」

良「はあ？どうしてまた急に…」

紅葉「雨が降る」

朶「えっ！？ほんと！？」

紅葉「ああ…西の方角に雨雲が見える…」

そんなの、全然見えないんですけど…

「まあ、あと1時間くらいで降るからそれまでに人のいるところを見つめるか、洞窟でも探す…」

良「？どした？」

紅葉「なんか、足音が聞こえる…」

朶「えっ？そんなの聞こえないけど…」

紅葉「シッ…」

紅葉が人差し指を口の前にやる…

紅葉「ん？」

蓮「なんか、分かったの？」

紅葉「ああ、この足音は…人間じゃない？」

栞「えっ!？」

紅葉「なにか、二足歩行の生き物が50匹くらいしかも、かなり大きい…」

良「はあ？なんだよそれ？」

栞「ね、ねえ!!あれ!!」

栞が指を指したところを見ると確かに二足歩行で薄い紫の蜥蜴のような生き物が崖を上っているのが見えた

良「な、なんだ!？ありゃ!？」

蓮「これって…やばくね？」

栞「に、逃げようよ…」

紅葉「駄目だ!あれじゃすぐに追い付かれる」

栞「じゃあ、どうすれば？」

紅葉「…俺が…囷になる」

栞「な、何言ってるの!？」

良「正気か!！」

紅葉「俺は、至って、正気だ…それに、ここで4人とも全滅するより、一人が囷になって、残った奴等がこの先にある村かどこかでこのことを知れば、最終的に被害は少なくなる…」

良「だからって、お前が犠牲になることなんか!！」

栞「そうだよ!!一緒に逃げよう!!」

しかし、紅葉は崖下にいる蜥蜴から、目を離そうとしなかった

蓮「…任せて、いいんだな？」

栞「蓮!？」

紅葉「…ああ」

蓮「…分かった…」

良「おい蓮!!お前、仲間を見捨てんのか!！」

良が蓮の胸ぐらをつかむ

蓮「紅葉は間違ったことは言っていないし、おそらく紅葉なら、あの程度なら…」

良「？あの程度？どういうことだ！？」

蓮「……」

紅葉「いいから！」

紅葉が声を荒げて言う

紅葉「ここは、俺に任せろ……」

良「！？……っ！！」

栞「紅葉……」

蓮「……」

良「っ！……くそ！！必ず追い付けよ！！」

栞「紅葉！あんなのに負けないでね」

蓮「任せたぞ」

みんな、紅葉の意見に納得したようだ

紅葉「ああ！！必ず追い付け！！」

紅葉が、言い終わって安堵したのか、みんな、一斉に蜥蜴が走っている道とは、反対の方向を駆ける

紅葉「……行っただか　さて、そろそろご到着かな」

紅葉のいった通り、紅葉の後ろには大勢の蜥蜴がいた

紅葉「ふっ！久しぶりの実戦か！前の実戦からは6年振り　腕が鈍っていなければいいが……」

紅葉が、言い終わった瞬間、群れの中でも一際大きい蜥蜴が突然鳴きだした

どうやら、紅葉を敵と判断したようだ

紅葉「ふっ！その程度の殺気か　他愛もない」

蜥蜴「ギャオッオウオ」

紅葉「さあ、行くぞ！！」

紅葉と蜥蜴が動きだした

しかし、その間に入る影

???「ふふ　少しは楽しませてくれるかな」

チャキッと刀を抜く音が聞こえた……

第3話：ジャギイの群れとドスジャギイ！？（後書き）

はい、第3話終了です

あつ、もちろん紅葉はまだ死にませんよ！

ていうか、ここで死んだらこの話もう、終わっちゃうってww

あつ、それと次回からはここにキャラクターのプロフィール載せていきますんでそこそこよろしくです。

では、感想など、お待ちしております

第4話：竜人族の少女（前書き）

こんにちはー

M t・K O B U R Aです!!

いやー、一日に2回投稿つてきついっすねー！

でも、まあ、基本的に僕は暇人なので、
こんなことは、しょっちゅうあるんで
よろしくでーす

それでは、第4話「竜人族の少女」
始まり始まり〜

第4話：竜人族の少女

??? side

崖下を見てみると、4人の子供が、なんか動揺？っていうか、困惑した表情をしている。

…うん！今のあたしなら、多分顔見られずにあの子たちを殺れるね

ん？あの子たちのさらに崖下に…ハハーン

この気配はジャギイの群れとドスジャギイか

こりゃ、間違いなくあの子たち、食い殺されるね

でも、あの赤髪の少年は、とっくに気づいてるな……一時間後、雨が降ることもね

おっ 来た来た 紫蜥蜴 ん？…ふーん、あの赤髪の子、殿務めるんだ…それに、結構殺気出てるね なんか、気持ちよくなってきた

ふふ ちょっと、興味出てきた

紅葉 side

まずは、3体小さいのが、出てきた…殺気をぶつけてみたが、怯んでもすぐに向かってきた。

おそらく、あの一際でかいのが、親玉…んで、そいつが指令を出してるのか…どおりで、妙に統率が取れているのか…だが…

スパアーンッ！！

俺の周りを、間合いを取るかのようにぐるぐる回っている蜥蜴を手
刀で頸動脈を切る

それだけで、一匹の雑兵の命を刈り取った…

「ギヤオツ！？」

それだけで親玉は、驚いている……この程度で驚くのでは……お前
は首領失格だ！！

??? side

うそっ！？まさか、武器を使わずにジャギイを倒すなんて…いくら、
ジャギイが小型モンスターでも、手だけで、倒すのはかなりきつい
し…

ふーん、これはかなり興味出てきたよ…

でもまだ、余裕そうだから、もう少し見てるかな

紅葉 side

ハアハアッ、クソ！！まだいるのか！！

現在、俺の周りには20匹くらいの小蜥蜴が息絶えている。

だが、これだけ倒しても、まだ半数の小蜥蜴と、首領が、残ってい
る。

それに、もうひとつ厄介なことがある。

それは、一撃で殺せなくなったことだ…

さつきから、的確に頸動脈を狙えなくなってきた。もちろん俺の疲労が原因でもあるが、もうひとつ俺が頸動脈を狙えない原因があった奴等が、攻撃の瞬間に身体をずらしてくるのだ…

俺の推測だが、あの首領が俺の攻撃パターンを記憶して、それを雑兵に伝えているのだ

それを聞いた雑兵どもは、俺が攻撃する瞬間に、身体を数mmずらして急所をずらす

クソ！敵がなかなか天晴れなことだ…

そんなことを考えながら、戦っていると、当然小蜥蜴以外に注意がいかない

俺は、小蜥蜴の攻撃をかわす際、小石のつまづいて、転んでしまった紅葉「しまっ…!？」

俺が転んだのを好機と見たのか、一斉に飛びかかってきた。

クソ！！いくらなんでも、こんな大人の体重とほぼおなじような奴等が一斉に飛びかかってきたら、あっという間に圧死してしまう！！

クッ！！ここまでか…みんな、ごめん…

「ふふ 少しは楽しませてくれるかな」

俺が、諦めて目を瞑ったら突然少女の、声と

「ギャアッ！！」

小蜥蜴の断末魔らしき声が聞こえた…

??? side

あつ！やばつ！あの子かなり、疲れてる。

でも手だけで倒した数は23頭か…ふーん、これはかなりすごいね
うん今すぐ目の前にいって拍手したいくらい、いやマジで！

だって、武器も使わずにジャギイを23頭倒すって人間やめてるで
しょ（笑）

あつ！つまづいた。しょうがない、やっと私の出番だね！ふふ 興
奮してきちゃった

紅葉 side

いきなり、俺の前に現れて小蜥蜴を切り伏せた女、一体何者だ？
しかし、よく見てみると見た目が俺らと何かが違う！

まず耳が尖ってる つーか、これってモンハンにもあつただけ
ど……えっ！？ここってまさかモンハンの世界！？じゃあ、さつき
のはモンスター！？でも、俺は、見たこと…あれっ…あー…
！！分かった！！これ、ジャギイか！？つーか、俺目悪いから全く
わからなかった

。だってさ、こつちの世界に来たら眼鏡もなくなつてんだもん！！
マジでアリエンティ

えっ！？じゃあ、どうして、女の耳が尖ってるって分かったって？

予備の眼鏡が尻ポケットにあつたんだよ！集中しすぎて気づかんか
った。 でも、この世界に来たときは、そんなもんなかったと思
うが…まっ、いいか。

にしても、耳が尖ってるってことは、この女竜人族か？

??? 「ねえ、大丈夫？」

紅葉 「ん？ああ、大丈夫…」

立とうとした瞬間立ちくらみが起こった

どうやら、想像以上に身体を酷使してしまったようだ…

???「ちよつと！全然大丈夫じゃないじゃん！！…いいよ。私があいつら殺るから」

……なんか今、あどけない顔の少女の口から“殺る”とか、聞こえてきたんですけど…

でも、竜人族だから、おそらく2〜300年は優に生きている筈だけれど…

でも、

???「とりあえず、君は座ってなよ あいつらなんて余裕で倒せるから」

何故か、この少女からでる言葉は信頼出来るものの声だった…

紅葉「（俺って、初めてあった奴は、基本的に欠片ほどの信頼もしないんだけどね…でも、まっ、いつか）」

そんなことを考えていると女は、背中に背負っている刀？いや、この世界じゃ、太刀か？を抜いていた

紅葉「（あの、刀は夜刀【月影】…へえー、なかなかできるんだな）」

「

???「さて、始めるか」

女は楽しそうな、今から、お遊びでも、するかのような声ではつきり言った

???「殺し合いを」

宴が始まった瞬間だった…

第4話：竜人族の少女（後書き）

登場人物紹介

File 1

名前：七海 紅葉

年齢：15歳

血液型：B型

誕生日：2月11日

身長：174cm

体重：65kg

私立名秋学園3年生 成績優秀、運動神経抜群だが、面倒くさがり屋のため、必要以上に友達を作らない。しかし、顔は結構イケメンなので七海紅葉ファンクラブがある。髪の色は赤。視力は右が0.1 左が0.03なのでかなり度の強い眼鏡をかけている。

殺気を感じとることができるほか、ジャギイを素手で倒したその実力から、過去に何かあった模様…。

赤羽 栞、鳥田 良、村地 蓮とは幼い頃からの幼なじみである。

どうでしょうか？

今回はいつもより（とはいっても、まだ3話しか無いけど）長めに

してみました。

プロフィールに関しては、やっぱり下手くそですね。

紅葉の過去については、番外編で書くか、話の後半で書くかは、今後、考えていきます。

それでは、次回もすぐに投稿すると思うので、よろしく願いします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9619y/>

モンスターハンター ～異世界から来た太陽～

2011年11月29日21時48分発行